

題 その子にとって大事なものは、お手紙をやることによって、自分が大きくなった、強くなった。一

川瀬 感謝されたり。

題 そうそう。そういう実感を味わえること。そんな大きな喜びではないです。色々とされる活動と自分で関心することの違いはそこなんです。お喜びは赤を使いますね。赤っていうのは好きだし、緑や青や感覚の成長にもつながってるとも思います。私が子どもの頃は、よく日本人の中を渡って学校に行った人だけと、その時に愛を持っていて、イトゴを贈って入れてるんです。イトゴはゆでて売って、それで学校が教材を買った。まさしく本物の教材だった。でもそれは自分で探して買ってあげようという気持ちもありません。今はそんなものは古いと前もったかもしないけど、でもみんな生き生きとしたね。

子どもにしっかり反響させる

川瀬 親さんの手を読んでいて、「不自由な子ども」という言葉が気に入ったんです。これはどういうことですか？

題 親や社会の任意に収まって、自分の欲で考えない、競争と気負いに苦しんでいる子どものことです。今、不登校の子どもの数は増えています。それは子どもたちのまっとうとした意思表明でもある訳で

す。川瀬 最近突に卒ものね。大人の仕事をすごい気にする子。私たちが子どもの頃は、先生とかおまわりの人々が来て貰おうと、子どもの中でキョッよければそれがベストだったような気がするんですけど、そうじゃなくで大人に愛されたいと、子どもの中でキョッよければそれがベストだったような気がするんですけど、そうじゃなくで大人に愛されたいと、子どもの中でキョッよければそれが

ベストだったような気がするんですけど、そうじゃなくで大人に愛されたいと、子どもの中でキョッよければそれが

ベストだったような気がするんですけど、そうじゃなくで大人に愛されたいと、子どもの中でキョッよければそれが



川瀬 キョッよければそれがベストだったような気がするんですけど、そうじゃなくで大人に愛されたいと、子どもの中でキョッよければそれが

ベストだったような気がするんですけど、そうじゃなくで大人に愛されたいと、子どもの中でキョッよければそれが

ベストだったような気がするんですけど、そうじゃなくで大人に愛されたいと、子どもの中でキョッよければそれが

す。それは間違いない。愛の力にはよく言われます。土日に家に帰った時は遅い時間です。家でアレアレ言われてくたさだ。それがたまに子を見て

川瀬 親子でアレアレしてありますけど、そうじゃなくで大人に愛されたいと、子どもの中でキョッよければそれが



川瀬 「不自由な子ども」の親は、自由な子どもです。感情性に依拠的に社会的な

川瀬 自由な子どもです。感情性に依拠的に社会的な

川瀬 自由な子どもです。感情性に依拠的に社会的な

川瀬 自由な子どもです。感情性に依拠的に社会的な

川瀬 自由な子どもです。感情性に依拠的に社会的な

川瀬 自由な子どもです。感情性に依拠的に社会的な

川瀬 どんなにちっちゃい時でも？

川瀬 赤ちゃんでもそう。おっぱいを飲む時も、3時間おきに泣かせるなんてのは、大人が決めたことな訳で、もうそこからは進んでいくんです。一時期は泣いたうつぶせでも、うつぶせにしていると進んでいきなからってという理由で泣いた。小学校に入ってから教育が始まる訳じゃないんです。

大事なのは学習の仕方

川瀬 学力についてお聞きしたいと思いますが、プロジェクトという体験学習中心で宿題もない、試験もない。それで学力は大丈夫という気持もあるかと思うのですが？

川瀬 それがあるさんが一番気にすることなんですけど、高校に通学した子たちを調べてみると、こちらが学力も身につけてないという感覚でして、早稲田の子たちが、成績で、割りとって勉強をするっていうのは高校受験くらいからじゃないですか。でもその中でも、勉強自体は好きとか、自分で考えることの喜びを感じていると思えます。

川瀬 私たちは無条件で受けた訳じゃないですか。今、小さな子どもと喋って思っているのは、彼らのどの部分をもって評価するのがいいのが従来のアーマってことなんです。むしろ評価していいのかとも思いますが、だから親が受けているのは、親が親がのびの子安心するためのものさしの一つかな。

川瀬 無条件教育ってのは、子どもたちが学習することの内容が同じである、そしてそれを計る尺度が一つであるという大前提の中で成り立っている訳です。でもそれはトントの意味での力になっていないんです。学力第一のフィンランドでは、中学校の一年間の授業がたったの10時間です。日本は90から100時間、ということは、授業時間が多い少ないで

学力は決まらないうことです。大事なことは学習の仕方。子どもたちが自分で問題を発見して、探究し、仮説を立て、そしてそれを確かめていくようなタイプの学習に促さなければいけない。

川瀬 学力の尺度が無限に変わってきているということですか？

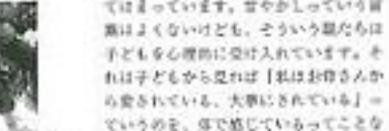


川瀬 これからの子どもたちは、どんな時代を生きていくのでしょうか？

川瀬 心配なことをあげていけば、やりがちなこと、時代はこうなるだろうと予測するなんて私には無理です。そんなことより、自由は人々！ 勉強も強いても、やり直せばいい。道は通ってもある。この世は面白い。朝日ほどんことがあるだろうと希望を持って歩かされる方——自己探求感を重んじることが今始まってる大加になると思っています。

川瀬 これからは自分自身をしっかりと押さえること、そしていかに時代にもついていけるか、自分で考えようとする。これは2歳、3歳の頃からちゃんと育てていて、それを大事に育てていかないと

いけないと思うんです。私がある時、自分で考えるタイプの子どもと、自分の力で「できない！」とかんしゃくを吐くタイプの子供と比べてみて、その親御さんの育児観と自分の育児観を比べてみたら、もうそれこそ親がくっついて一緒に育てたんですが、親御さんの育児観はよくない。そして子に課してあげないこともまたよくないということ。自分で考える、進めぬ、失敗してもまたやり直さってという子の親は、海外にも結構多量には、「愛のかし」に育ってはいません。甘やかしてという育ちもよくないけども、そういう親たちは子どもを心理的に受け入れています。それは子どもから受け入れ「私はお母さんから愛されている、大事にされている」というのを、母で感じているってことなんです。そういう子が特別、親御親に育てる子になりやすい。だから親って「あれをやりなさい、これをやりなさい」と必言うよりも、「今のありのままにいいんだよ」というメッセージを伝えてほしい。その方が効果、「お母さん」ってことなんです。



川瀬 これからは自分自身をしっかりと押さえること、そしていかに時代にもついていけるか、自分で考えようとする。これは2歳、3歳の頃からちゃんと育てていて、それを大事に育てていかないと

川瀬 これからは自分自身をしっかりと押さえること、そしていかに時代にもついていけるか、自分で考えようとする。これは2歳、3歳の頃からちゃんと育てていて、それを大事に育てていかないと

川瀬 これからは自分自身をしっかりと押さえること、そしていかに時代にもついていけるか、自分で考えようとする。これは2歳、3歳の頃からちゃんと育てていて、それを大事に育てていかないと

川瀬 自由な子どもです。感情性に依拠的に社会的な